

会議名	スポーツによるまちづくり推進委員会（第1回）
日 時	平成26年10月30日（木）18時00分から20時30分
場 所	市役所3階 第二委員会室
出席者 【推進委員】	平中 政明、佐藤 俊子、岩間 英昭、高橋 睦美、 横内 淳、平田 武、八橋 志暢、宮川 力雄、千々松 正俊、 松富 直人、伊場 勇、町田 正勝、井上 洋希
事務局	大田成長戦略室長、川崎主幹、伊與木主査、石田主査、 村田主任、林主任主事

会議次第	1. 辞令交付 2. 成長戦略室長あいさつ 3. 自己紹介 4. 議事 （1）副委員長の選出について （2）スポーツ振興について ・本市のスポーツ振興の現況について ・スポーツ推進計画について （3）その他 5. その他
辞令交付	各推進委員に辞令交付。
成長戦略室長 あいさつ	成長戦略室長があいさつ。
委員自己紹介	各委員の自己紹介。
委員長選出	要綱第4条の規定により成長戦略室長を委員長とする。
副委員長選出	議事（1）副委員長選出 副委員長に平中政明さんを選出した。

事務局	議事（２） 本市のスポーツ振興、スポーツ推進計画について事務局が説明した。
委員長	本来ならば、スポーツによるまちづくり推進委員会とは、スポーツをツールとしたまちづくりをするための夢を描いて、協議をしていただく委員会だが、当面はスポーツ推進計画を作成していくことを目的に進めていかなければならない。先ほど事務局が説明したが、もともとスポーツ基本法の９条で、「国はスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、スポーツの推進に関する計画を定めなければならない」と国の責務が書いてある。その次の１０条で都道府県及び市町村の教育委員会は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の事情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものとしており、作らなければならないという義務規定ではなくて、努めなさいという努力義務である。ただ、努力義務だから策定しなくてもいいというものではなく、どこの市町村もこのスポーツ基本法に基づいていわゆるスポーツ推進計画を策定するものとなっている。 先ほど説明があったとおり、山口県内の市では、平成２５年度末に策定していないのは、山陽小野田市と美祢市だけだが、美祢市が今年度中に策定するということなので、残りは山陽小野田市だけになってしまったということになる。これは、機構改革で市長部局にスポーツをまちづくりに活用するという計画があったわけで遅れたが、もう少し教育委員会で計画策定を進めていただければと思っている。引き受けた成長戦略室としては、現状早い時期に策定していきたいと考えている。 この委員会の設置要綱第１条で、本市におけるスポーツの振興及びスポーツによるまちづくりの推進に関し、広く市民から意見を聴くためにこの委員会を設置した。このスポーツ推進計画が出来上がれば、本来のスポーツによるまちづくりについて議論していただければと考えている。当面はスポーツ推進計画の作成を優先してもらえればと考えている。 ここまでで何か質問があるか。 それから、せっかくスポーツに関する事務をまちづくりという形で

	市長部局にきたので、「スポーツ推進計画」という名前よりは「スポーツによるまちづくり推進計画」ということにして参りたいと思う。また、サブタイトルではないが、何かキーワードみたいなものがあればいいなと思っている。 通常スポーツを所管する事務は、大きく三つに分かれると思う。一つが生涯スポーツ推進、二つ目が競技スポーツ推進、三つ目がいわゆる交流人口の増加、この三つに取組んでいきたいと考えている。一つ目の生涯スポーツの推進というのは、皆さんが何か一つ体を動かすことを習慣付けていただき、それが健康づくりにつながり、行政の目的とすれば医療費の削減につながればという流れを考えている。 二つ目の競技スポーツの推進というのは、それぞれを「見る、する、支える」とことと考えております。最近、山陽小野田市が山口県にあるサッカーチームのレノファ山口のホームタウンになったが、山陽小野田市はサッカーだけで、他の競技スポーツを切り捨てるのかという声がある。このことについては、決してサッカーに特化するという意味ではなく、どのスポーツについても同じ扱いをしていきたい。 それでは、レノファ山口をどう活用するのかということだが、交流人口の増加、一体感の醸成ととらえており、自分の好きなスポーツに愛着をもってやっていくということで、応援するのは地元チームのレノファ山口を応援することで交流人口を増やしていく、一体感の醸成が図れるツールとしてレノファ山口の応援を考えており、決してサッカー振興としてレノファ山口を応援していることではない。 先ほどから事務局の説明があったが、これから、4回の会議で素案の完成までもっていききたいと考えている。それで、その都度、事務局が案を示し、それに対しての意見を言って頂いて、次回以降修正をしていくということで考えている。 ただ、完成品に近いものを提示して、意見を出してくださいというやり方は好ましくないと考えている。計画の骨格を作っていく段階から意見を聴くということで、目次を中心に作っていただきたいと思う。それに対して意見を言ってもらえればと思う。具体例で言うと、資料3の山口県スポーツ推進計画でいくと、一枚めくると、知事の挨拶と目次がある。この目次を次回は作って行く。つまり、どういう項目を設定してくみ上げていこうかということを決めて、皆さんか
--	---

	ら意見をもらいたいと考えている。 山陽小野田市として、どういう項目を作るのかを考えていくため、大きな項目を次回、皆さんから意見を出していただきたいと思う。他市にないまちづくりに資する意見をどんどん言って頂きたいと思う。この項目が出来れば、小さな細目のところを事務局から提案させていただき、そのときに皆さんから意見をいただき、中項目を作り、最後に大項目を作って完成としていきたいと思う。ただ、アンケート調査については、途中で行いたいと考えている。今回は、長門市の推進計画を付けているが、それぞれ各市のホームページを見ていただければ、インターネットでスポーツ推進計画と検索してもらえれば出てくるので、一度時間があるときに見ていただければと思う。 ここまでで何か意見があるか。
副委員長	スポーツ推進計画について、2、3年前から完成していないといけないとあり、先ほどから説明があったが、何を言っているかわからない。市は素案を作っていると思うが、その素案を出して、それから審議をしたほうがよい。みんな何ページの何を審議すればよいのか分からないのではないかと。基本的には、参考資料にある長門市スポーツ推進計画であろうが、美祢市スポーツ推進計画であろうが基本的には変わらないと思われる。
委員長	基本的な部分は変わらないと思う。教育委員会で途中まで作成したものはあると聞いている。ただ、この推進計画を一から作りたいと考えているが、皆さんに負担をかけるつもりはない。まず目次を作って、小項目を作って、中項目を作って、段々と形になっていくということを目指したいと考えている。それを4回程度の会議を積み重ねていき、完成を目指して行きたいと思う。
副委員長	骨組みを作りたいと言われるが、もう出来ているのではないかと。目次というのは、ここにあるように長門市でもあるように計画基本構想、推進の方向であり、これは基本的に変わらなくて内容が変わるということと思う。しかし、素案を出してもらわないと、何のことかここにいる委員さんは何を協議して良いかわからないと思う。

委員	この長門市の資料を見たら、主要施策にキャンプ地誘致とかの目標となるものがある。そういう考え、目標となるものがあると話もしやすくなると思う。
委員長	そうすると、ほぼ完成品を皆さんに提示すると、誤字の訂正とかいう議論になりがちになる。
委員	目次となる項目はどこの自治体も変わりないと思う。先ほど副委員長からの意見があったが、今後のスケジュールを見たら、私達はどこで意見をすればいいのか分からない。
委員長	今日は趣旨を説明した中で、次回に目次の設定と言ったが、骨子案を事務局が提示して、意見を述べてもらうことにする。ただ、本市独自のカラーを出さないと、他市のものを色々取ってきたりするだけでは本市の推進計画としてはダメだと思う。
委員	今までの話を聞いて、本当にこのスケジュールで間に合うのか。もう少し時間がかかるのでないのかと思う。
委員長	本来はそこを一つ一つ審議していけば、何回もしていかなければならないが、4回あるいは5回開催しきちんとしたものを作っていただきたいと思う。 スポーツ推進計画を作成するということは、山陽小野田市のスポーツ施策を今後左右するものを作ることである。つまり今後10年間で左右する計画となる。それで、他から良いところを取ってきて作るのであれば、山陽小野田市のカラーが出ない。
委員	各団体の意見が聞きたいということだが、推進計画を作成する段階でソフト面は協議できると思うが、ハード面について、例えば体育館の屋根は雨漏りが何年も続いていて、予算がないからといった状況で、いくら計画を作ってもハード面は一切解決しないという状況がでてくるのではないか。
委員長	そういった懸念が出てくれば、施設整備という項目を追加し、老朽化した施設についての計画を作れば、財政課に予算要求することができやすくなる。

	われわれは骨格をくみ上げる段階から、意見を聴きたいと思っている。この計画は少なくとも10年間事業実施等に縛りをつける。市長が変わっても、この計画を見直さない限り、それを無視するわけにはいかないので、皆さんに骨格の段階から取組んでいただければと思う。
委員	施設管理については、なかなか予算化されないということならば、裏づけとなるデータをとり、どのような大会をしたらどれぐらい経済効果があるとかの調査をする項目が入っていないと思う。そういうことを含められたら、どのような大会をしたらこれだけの経済効果があるということが分かると思うが、どうか。
委員長	それは、多分難しいと思う。
事務局	山陽小野田市においては、体育施設は恵まれているのかなと感じている。確かにかなり老朽化しているところもあるが、スポーツが出来る施設は整っていると思う。 もし、スポーツによる経済効果という項目を考えるのであれば、どのようなスポーツ大会を実施すれば、どの程度の経済効果が期待できるかということを検証しなければならないと思う。
委員	スポーツによるまちづくりについては、観光面との関連も考えていかなければならないと思う。
委員長	観光面として捉えるならば、いわゆる交流人口の増加を考えていかなければならないと思う。
委員	せっかくこのスポーツによるまちづくり委員会が出来て、市がスポーツに対して本気になっているのもう少し状況を見てみたいと思う。ただ、審議する中で判断する資料が無いのでは、どのようにこの委員会で協議していいか分からないと思う。各競技でどのくらいがスポーツをしているのかなど、判断材料となる資料を出してほしい。
委員長	用意できる資料があればすぐに用意したいと考えている。 それでは、先ほど骨子と言ったが、若干骨組みに肉がついた計画を

事務局	示して、色々な意見を言っていただければと思う。 事務局としては、次回いつぐらいを予定しているのか。 1 2月中下旬を予定している。 1 2月中下旬の木曜日の18時で調整したい。
-----	--